

府中市健康地域づくり審議会
第16回長寿サポート分科会 報告書

○日時：平成29年10月3日（火）19時から21時

○場所：市役所2階第一応接室

○出席者：多田敦彦（分科会会長） 岡田美和子（分科会副会長）
檜崎靖人（分科会委員） 佐野敏明（分科会委員）
山中香（分科会委員） 田中玲子（分科会委員）
藤原洋子（分科会委員） 今川智巳（分科会委員）
山根剛（専門委員） 西宮達二（専門委員）
寺岡暉（職権委員）

○事務局：九十九浩司健康福祉部長 皿田敏幸健康政策室長
唐川平長寿支援課長 石口由美長寿支援課長寿さぼ〜と係長
山田典央長寿支援課介護福祉係長 真田公子長寿支援課長寿さぼ〜と係
奥谷剛長寿支援課長寿さぼ〜と係

○オブザーバー

（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 井原 豊

○議題

(1) 第7期介護保険事業計画策定について（協議）

- ・府中市の第7期介護計画の基本理念
- ・介護保険サービスの充実
- ・人材確保の取組
- ・認知症施策の推進
- ・地域包括支援センターの機能強化
- ・在宅医療・介護連携の推進
- ・地域支援事業の推進
- ・介護保険適正化の取組

(2) 施策の進捗及び次年度施策の方向性（案）について（協議）

- ・高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり
- ・人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発
- ・「支える医療」の中核づくり
- ・その他の施策

(主な意見等)

1 第7期介護保険事業計画策定について

■基本理念について

- 第6期計画の3つの重点施策「げんき・ちいき・ながいき」を継承してあり、また、元気高齢者を増やす、そして、最期まで地域で過ごすということを基本にしてあり、いいと思う。
- 元気高齢者を増やすというのはいいいメージが出ていてよいと思うが、「最期まで地域で」というのは目標がぼやけていると思う。
- 「最期まで」という言葉を入れるのならば、孤独死の問題を具体化する必要がある。
- 「安心して最期まで過ごせる地域にしよう」という表現がよいのではないか。
- 安心というキーワードは大変いい言葉。「安心して最期まで過ごせる地域をつくる」という表現がよいのでは。
- 「最期に住む場所」として限定しない表現になっているのはいいいことだ。表現をもう一工夫を。

■介護保険サービスの充実について

- 一般的な通所介護の中に認知症の方が入られてもいろいろな対応の仕方が混在し、認知症への専門的な関わりなどが必要となるので、認知症の方の通所介護があったらいいと思っていたので、認知症対応型通所介護を北部圏域に1事業者整備する方向はよい。
- 事業所の整備は、無制限に増やせばよいというものではない。
- 訪問看護、訪問介護、小規模多機能型居宅介護が各地域にあることが好ましい。
- 居宅療養管理指導について、薬剤師会からの意見などを拾い上げる仕組みができてくれればいいと思う。

■人材確保について

- 北部圏域では募集してもなかなか人材が集まらない。
- 医師会が行っている人材確保の事業の成果等を説明すべき。

■認知症施策の推進について

- 府中市の圏域ごとの現状に加えて、広島県や全国の状況も示してほしい。
- 認知症については予防、認知症への対応等いろいろ議論があるので、長寿サポート分科会だけではなくて、他の分科会でも議論すべき。
- 認知症の一番のリスクは糖尿病。府中市は特に糖尿病が多い。
- 認知症は予防が非常に大事。認知症は全身の臓器との兼ね合い。糖尿病、心臓病、脳卒中、

筋肉の衰えなど。全身の臓器が全部かみ合っている。その歯車に乗っかっている脳がある。そのため、全身の取組なしで、脳だけやっても予防につながらない。イギリスは、全身の健診を10年勤めたら10%認知症が減ったというデータがある。全身の健診がどの程度行われているかどうかということも基礎データとして出すべき。

○早期発見も重要。かかりつけ医、家族、または本人が発見するなど様々。パソコンやアプリなどのツールの活用も考えられる。

○民生委員の根本的な活動は地域共生社会づくり。地域の人が集まれる場所、高齢者、子ども、寂しい方などいろんな人が集まれる場所を作って仲良く過ごして、皆で力を合わせてあたたかい気持ちになれる地域を作ることが皆を元気にしていくこと。

○認知症カフェという名前は使っていないが、特別サロンとして認知症で治療を受けている方などにきていただいて、2時間くらい雑談をして帰ってもらっている。

○大切なのは地域でどのように認知症の方と向き合うかということ。向き合い方はいろいろとあると思う。いろんな形があっている。

○認知症カフェやもりもり体操のグループを立ち上げたいがどうしたらいいかわからないという人が多いのでは。立上げを支援することで、グループが地域が増えていくと思う。

○施設という小さな単位ではなく地域全体を考えて、その中に高齢者と子どもとの接触の場や共同で何かをする場などが、自然発生的に出てきてはじめて地域に根付く。そうすると安心して身を任せることができるようになる。

○適度な集団の大きさとして、北部地域はそういうものが育ってきてもよいのでは。

○大切なことは、コミュニティーで皆で理解し合いながら、お互い情報交換すること。格式にこだわらずどんどんすればいい。

○本人が参加できない場合でも、家族が相談する場があるという意味で心強い。

○認知症カフェはきっかけづくり。認知症がどうのこうのというよりは皆で認知症や子どもの貧困対策など地域の皆を巻き込んで見るということが大事。

○介護者の慰労も大事なこと。介護者は、ショートステイの利用でとても助かっている。

○ショートステイ等を利用することで地域でずっと長生きすることに繋がるし、家庭だけではなく、「施設でも過ごしながら地域で」ということは大切なこと。

○認知症カフェは、孤立死の問題にも有効。認知症が1つの地域づくりの突破口になっている。

■地域支援事業の推進について

○生活圏域のニーズ調査のデータを、わかりやすく提示すべき。

○閉じこもりへの対応として、ぐるっとバスの活用が考えられる。1デイパス（1日乗り放題券）というものを作ることを検討してもらいたい。高齢者の足の確保、生活の場を広げる

ことにもなるので。

○すけっと屋の仕組みをこれに入ればよいのでは。

2 施策の進捗及び次年度施策の方向性（案）について

○府中市はドクターが減少しており、全部看取りを在宅でするのは難しいのでは。

○在宅での看取りとして、最期の数日は病院でもいいと思う。

○人材確保の新たな施策として、初任者研修や実務者研修に対する助成制度を創設することはよい取組。研修受講料で人材確保のハードルが高くなっている実態もある。